

タイトル：2022 年度教育セミナー（第 18 回）

日時：2022 年 9 月 15 日（木）～18 日（日）

オンライン・対面でのハイブリッド開催

「民主化の意図せざる結果：欧州連合による民主主義の進展と後退」

関颯太（神戸大学大学院法学研究科博士課程前期課程 2 年）

本セミナーでは、執筆中の拙修士論文、「民主化の意図せざる結果：欧州連合による民主主義の進展と後退」（仮題）について、セミナー参加時点での実証分析の結果と事例研究によって明らかになったことについて発表をさせていただきました。以下、セミナーに関して、感想と評価をまとめさせていただきますので、次年度以降ご参加を検討されている方々にとって何かの参考になりましたら幸いです。

まず、セミナーで研究発表をさせていただくことで所属研究科とはまた異なった知見やフィードバックをいただくことができただけでなく、充実した夏季休暇を過ごすことができました。セミナーに参加された院生や先生方のディシプリンやご専門地域に関して、修士段階で参加だけでなく、発表の機会も設けられている場としては、かなり充実しており、多様性に富んでいると思います。アジア・アフリカ言語文化研究所の先生方は、人文系をご専門とされる方が多いように拝察しましたが、ご研究対象の地域に長年向き合ってこられたことで培われたであろうご経験から、専門外の社会科学系の分野の発表に対しても鋭いご指摘や示唆に富むご高評をされていたのが印象に残っています。

夏季休暇中は、授業やゼミ等での発表や学会報告がなければ、目先も目標もなく、研究が遅滞しがちです。本セミナーでの発表が決定した 7 月時点から、9 月半ばの研究発表に向けて、当時進めていた研究を一定程度まで仕上げるという目標ができました。そのおかげで夏季休暇中も徒然と時間を過ごすことなく、毎日緊張感を持ちながら研究を続けられました。

次に、若手研究者間での人脈拡充に大きく寄与したと感じています。中東ないしはイスラーム関連のご専門の大学院生が関東近郊だけでなく、関西や九州から東京、府中市のアジア・アフリカ言語文化研究所にて一堂に会し、活発な議論が絶えない充実した 4 日間となりました。そうしたセミナーの場における質疑応答等をとおして発表者の方々のご研究関心に触れ、今後、研究者を目指すにあたってのネットワーク形成につながりました。

そして、先生方からの講義は、ご専門に加え、それぞれの先生のこれまでのご研究と人生について学ぶ機会となりました。それぞれの先生方からご研究対象に関しての想いやこれまでのご経験を聞かせていただき、自分のこれからのキャリア形成や将来の研究者像を思い描くにあたって大いに参考になりました。こうしたお話は、普段の大学の講義等ではほとんど聞くこともないため、非常に興味深く拝聴しました。

最後になりましたが、セミナーにてご講義をくださいました、長縄 宣博先生、鳥山 純子先生、鈴木 伸隆先生、竹原 新先生、高松 洋一先生、黒木 英充先生と、ご企画だけでなく、4日間もの長期間、連日に渡り、朝から夕方にかけて運営や司会をくださいました、飯塚 正人先生、近藤 信彰先生、野田 仁先生、後藤 絵美先生、熊倉 和歌子先生、太田（塚田） 絵里奈先生、神田 惟先生、嘉藤 慎作先生をはじめとするアジア・アフリカ言語文化研究所の先生方、そして、アジア・アフリカ言語文化研究所フィールドサイエンス研究企画センター事務局の千葉 淑子さんには、この場を借りまして、御礼を申し上げます。